



歯科用CT撮影装置の導入

徳島大学病院 歯科放射線科 総務医長 細木 秀彦 ほそき ひでひこ

■問い合わせ 歯科放射線科外来 Tel.088-633-7375

■歯科放射線科の診療

歯科放射線科では、歯や顎（あご）の病気の様々な方法によるX線検査とそれらの診断を行っています。最も多く行っている検査方法は、口の中に小さいフィルムを入れて行う方法です（図-1）。この検査は、むし歯や歯周炎（歯槽膿漏）の進み具合など細かなところを観察したいときに行います。次に多いのはパノラマX線検査です（図-2）。この検査では、1回の撮影によりすべての歯だけでなく、鼻、頬（ほお）骨、顎の関節まで1枚のフィルムに映し出すことが可能です。

以上のような検査法だけではなく、CT検査、超音波検査も行っています。ただし、放射線治療、MRI検査やPET-CT検査は、医科診療棟の施設を使って放射線科の医師と共同で診療を行っています。

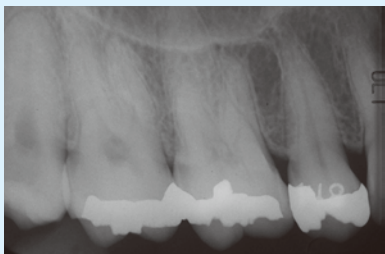


図-1 ▲小さいフィルムを口の中に入れて撮影したX線写真

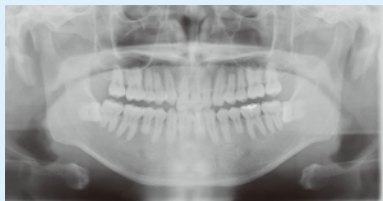


図-2 ▲パノラマX線写真



図-3 ▲歯科用CT撮影装置

■歯科用CT撮影装置

最近、検査件数が増えているのが歯科用CT撮影装置を使った検査です（図-3）。歯が抜けてしまったあとのインプラント治療のための検査（図-4）や、顎の骨の中に埋まっている歯の矯正治療などにもその威力を発揮しています。院内の他の診療科からだけではなく、開業さんからの検査依頼も受け付けています。この装置では、検査する範囲を絞り込むことによって従来型のCT装置より少ないX線の被曝量で検査を行うことが可能になりました。しかしながら、現在のところ各種の健康保険が適用できない検査となっています。

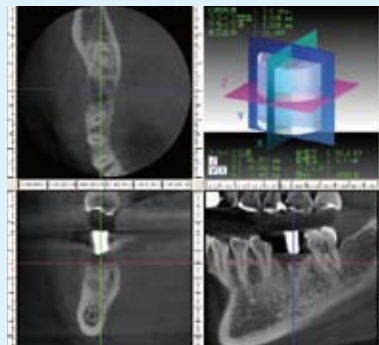


図-4 ▲歯科用CT撮影装置によるインプラントの治療計画